

紀要委員会委員

打浪文子
佐藤純子
清水将之
田村美由紀（副委員長）
長谷川美貴子
長谷部比呂美
藤澤雅子
前正七生（委員長）
小泉諭（事務）

編集後記

古い話で恐縮ですが、つい先日、1990年代に教育学者の佐藤学が『カリキュラムの批評』の中で、「どんなに新しいものでも教育の文脈に入るとたちまち色褪せて旧臭くなる」と述べていたことを思い出しました。AI文化と情報機器の浸透の中で場と空間、時間がかつてのような意味（優位性）を持たなくなってきた今、どの分野でもオチとして囁かれるのが「これだけICTなどの環境が整い、創造・伝達の機会が拓かれていても、あまりにも多くの人がそういう現実を知らない」という話。とどのつまり、「時代の変化に比べて、教育（界）の変化が遅すぎる」ということのようなのです。元々「教育は国家百年の大計」と言われ、長期的な視野を大切にしてきたシステムで、その種の新規・先駆性には欠けており（後手に回らざるを得ないという意味で）、急激な変化に弱い性格を持っています。圧倒的な精確性と速さで人知を凌駕する人工知能の前に、教育や研究に携わる生身の人間にできることは何なのか、真摯に考える時期に来ているのだと思います。（M・M記）

淑徳大学短期大学部研究紀要 第59号

発行日 平成31年2月25日

編集発行 淑徳大学短期大学部 紀要委員会
〒174-8631
東京都板橋区前野町6-36-4
電話 03-3966-7631（代）
FAX 03-3558-7990（代）

印刷 株式会社 白鷺社
〒170-0002
東京都豊島区巢鴨1-14-10
電話 03-5977-8761（代）